

# 週刊 タバコの正体

タバコは血管にダメージを与え、その結果“動脈硬化”をおこし、血管が詰まったり破れたりします。そして、それが心臓でおこった場合は“しんきんこうそく心筋梗塞”や“きょうしんじょう狭心症”と呼ばれる命にかかわる病気になる事はすでに紹介しましたね。同じように重要な脳の血管が詰まったり破れたりすると、こちらも命にかかわる病気になります。

下図に示すように、脳の血管に関する病気全体は“のうそっちゅう脳卒中”と呼ばれ、大きく3つの種類があります。それらは脳の血管が詰まる“のうこうそく脳梗塞”、脳の表面の太い血管が破れる“くも膜下出血”、脳の中の細い血管が破れる“脳出血”です。脳は体の様々な機能をコントロールしているので、脳卒中を発症すると命にかかわる事はもちろんですが、一命は取り留めたとしても寝たきりになるケースや、何らかの後遺症が残る確率が高くなります。

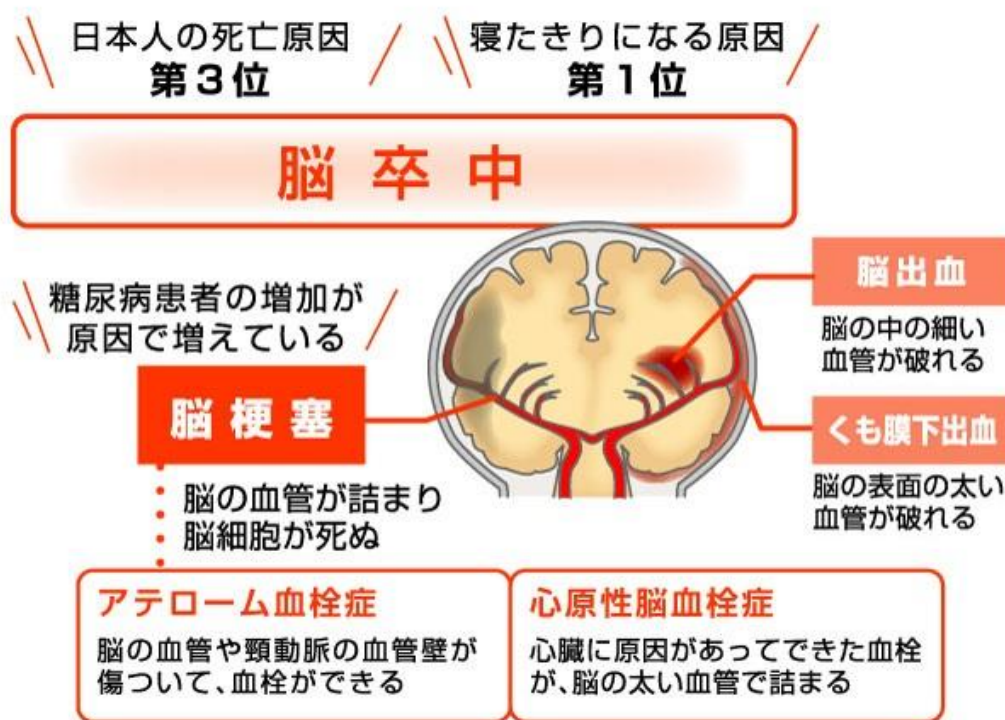
例えば大脳を損傷すると、運動麻痺や感覚障害、ろれつが回らない、言葉が出ないなど言語障害が残ります。脳幹や小脳の場合はモノが二つに見えたり、ふらつくなどの症状がでるそうです。

怖いですね。こんな病気にならないように気をつけようと思いませんか。

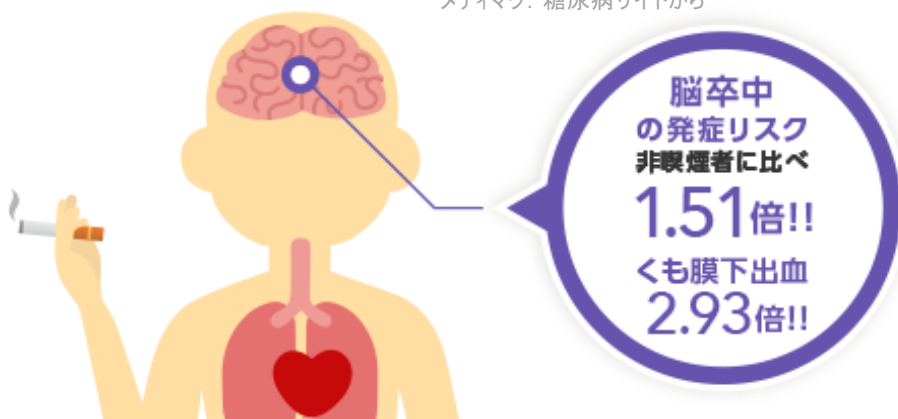
そのためには血管を大切にしなければなりません。左下図にあるように血管にダメージを与えるタバコを吸い続けると脳卒中の発症リスクが1.5倍になるそうです。

だから、やっぱりタバコに手を出すべきではありません。

産業デザイン科  
奥田 恭久



メディマグ、糖尿病サイトから



すぐ禁煙.jpサイトから